



ベッド関連用品

ベッド選びで大切なことは、ベッドの上でラクに身体を起こせたり、ベッドに腰かけてラクな姿勢が保てること。また、お世話する人がラクな姿勢で介護ができることも考えて選びましょう。

ベッドでの生活とリハビリテーション

寝室は自立した生活を送れる空間として考えることが大切です。高齢者には布団よりベッドの方が、起きたり座ったりする動作がラクです。特に介護ベッドは背上げ、膝上げ、高さ調節ができ、テーブルや介助バーなど様々なオプションがあります。これらをつまよく利用して素晴らしい環境で療養できるマイルームを作ってみてはいかがでしょうか。

介護ベッドの機能

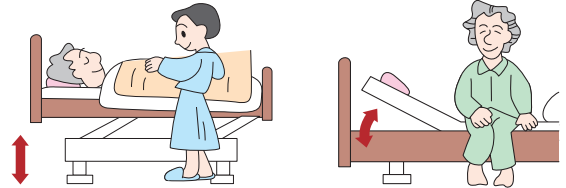
1 背上げ・調節機能付ベッド

ベッドの背が上がります(高さ調節ができます)。筋力の弱った方でも起き上がりがラクで、読書や食事に便利です。介助者には、高齢者の立ち上がり等の介護負担を軽減します。
※背上げと同時に、腰部分が沈み込み、体のズレを防ぎます。



2 背上げ・高さ調節機能付ベッド

ベッドの背が上がリ、高さを調節できます。足腰がちょっと弱った方はベッドに腰掛けて、かかとがつくぐらいの高さに調節すると立ち上がりやすくなります。腰をかがめず介護する姿勢を保てます。
※背上げと同時に、腰部分が沈み込み、体のズレを防ぎます。



3 背上げ・膝上げ・高さ調節機能付ベッド

ベッドの背・膝が上がリ、高さを調節できます。各機能を手元スイッチのワンタッチ操作で自由に使い分けすることができます。高齢者には自立への手助けとなり、介助者も手動操作による肉体的負担を軽減します。



介護ベッドを選ぶ時のポイント

症状

ハンディを負っているところを確認し、自立を促進する補助具と考えて下さい。

年齢

75歳を過ぎた高齢者は何らかの障害が出てくるものと考えて下さい。

体型①

体が曲がっているか、マヒがあるか、長さは左右対称かをチェックします。(ベッドの位置はマヒがある側を壁にし、利き腕や脚を動かしやすいようにします。)

体型②

身長とのバランスで痩せているか、太っているかをチェックしましょう。

身長

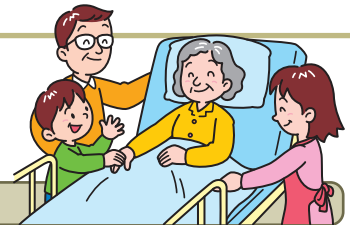
介護用マットレスは191cmで統一されているため、175cm以上の人は足先が出ます。(14cm延長の補助フレームの取付可能なベッドもあります)

ADL レベル

現時点での残存能力を把握しておきましょう。(日常生活自立度)

進行性が慢性か?

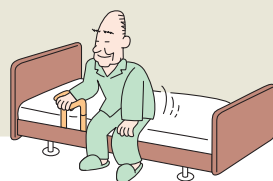
症状の変化に対応できるものを選びましょう。



ベッドからの起き上がり・立ち上がりを助ける 自立補助具

介助バー

つかまって体を支えます。使いやすい高さに調節することができます。



スイングアーム介助バー

つかまって体を支えます。使いやすい角度に調節することができます。

